

創業家が企業経営に与える影響

—同族企業と非同族企業はどのように異質なのか?—

竹原 均

目 次

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1. 研究対象としての同族企業 | 4. 株式保有と代表権の影響 |
| 2. 同族企業の定義 | 5. 回帰分析の結果 |
| 3. タイプ別に見た同族企業の特徴 | 6. 結論と将来の研究課題 |

本稿ではCorporate Financial Performance (CFP)、市場流動性、Corporate Social Performance (CSP) という三つの側面から、わが国の同族企業の持つ特性について分析を試みた。われわれは本稿を含む一連の研究において、創業家による株式保有と創業家出身の代表権保有者の有無により同族企業を定義している。このため「創業家株式保有」と「代表権の有無」という二つのチャンネルを介して、それらと経営上の特性との関係について分析を進めることとなる。分析の結果、非同族企業と比較して特に事業承継後に同族企業の財務リスクは低下するものの、その一方で同族企業の市場流動性とCSPは平均的に低いことが明らかとなった。また創業家が代表権を持って経営責任を負う場合にCSPに対して正の影響を与えるものの、事業承継後においては、そうしたCSPへの正の効果が失われていることが示された。

1. 研究対象としての同族企業

本誌の読者が筆者に対して持つイメージは、アセットプライシング、あるいはポートフォリオ理論を専門とする研究者であろうから、その点では今回の特集「ファミリービジネス」への寄稿に違和感を持たれた方も少なくないと思う。実際のところ、筆者が同族企業経営を研究対象としたのは、科研費による研究プロジェクトを契機として

であり、この分野の研究者としては新参者である(注1)。

それでは科研費プロジェクトという機会があったにせよ、なぜ専門外の同族企業研究を手掛けることにしたのか?

アセットプライシング、あるいはマーケット・マイクロストラクチャーの研究をしていると、企業の長期成長、あるいは企業文化といった自分の専門分野と正反対に位置する事柄に関心が向くこ



竹原 均(たけはら ひとし)

早稲田大学大学院ファイナンス研究科教授。1989年筑波大学博士課程社会学研究科単位取得退学、同年4月(株)エムティービーインベストメントテクノロジー研究所(現三菱UFJトラスト投資工学研究所)入社。93年博士(経営工学・筑波大学)。筑波大学社会学系講師、助教授を経て2006年4月より現職。主な著書に*Reform and Price Discovery at the Tokyo Stock Exchange from 1990 to 2012* (Palgrave MacMillan, 2015)がある。